

商品名 ゼノンコールド 添付文書情報

一般名	キセノン吸入剤（非放射性）	薬価	30975.00
規格	8L 1容器	区分	
製造メーカー	安西メディカル	販売メーカー	安西メディカル
薬効	7. 治療を主目的としない医薬品 72. 診断用薬（体外診断用医薬品を除く） 729. その他の診断用薬（体外診断用医薬品を除く） 7290. その他の診断用薬（体外診断用医薬品を除く）		

ゼノンコールドの用法・用量

本剤をコールドキセノンガス吸入装置ジートロン（AZ-720シリーズ）に装着し使用する。通常、成人に対して次の方法により使用する。本剤と空気及び酸素を混合し、キセノン濃度30～35vol%としたものを呼吸マスク等を通じて約4～8分間〔キセノン（非放射性）として約7L〕吸入させる。この際、酸素濃度は、最低21vol%を確保すること。なお、吸入時間及び量は、年齢、体重により適宜増減する。その後空気に切り換えて約10分間吸入させる。本剤の吸入開始から空気の吸入終了までX線CT装置により脳組織内のキセノン量を継続測定し、コンピュータープログラムにより演算して、局所脳血流量及び局所脳血流分布を求める。

【用法及び用量に関連する注意】

1. 本剤の使用にあたっては、用法及び用量を厳守し、使用量は必要最小限にとどめること。
2. 本剤により検査を行う場合は、患者の状態を良く観察すること。本剤の使用中は酸素濃度の監視を行い、酸素濃度は21vol%以上を確保すること。

ゼノンコールドの効能・効果

X線CTを用いた局所脳血流量及び局所脳血流分布の測定。

ゼノンコールドの副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

2. その他の副作用：

〔1〕吸入中発現：

- ①. 消化器：（0.5%～5%未満）嘔気、嘔吐、（頻度不明）唾液増加。
- ②. 中枢神経系：（0.5%～5%未満）意識状態変化、呼吸抑制、四肢のしびれ、頭痛、（頻度不明）めまい、精神状態変化。

③．呼吸器：（頻度不明）咳。

④．特殊感覚器：（頻度不明）嗅覚錯誤。

〔2〕吸入後発現：

①．消化器：（0.5%～5%未満）嘔気、嘔吐。

②．中枢神経系：（0.5%～5%未満）意識状態変化、呼吸抑制、四肢のしびれ、頭痛、（頻度不明）めまい、精神状態変化。

ゼノンコールドの使用上の注意

【重要な基本的注意】

1. 本剤自体、麻酔作用を示すため、用法・用量には注意すること。
2. 麻酔作用発現時には吸入を中止する等医師の適切な処置を受けること。

【妊婦】

診断上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること（本剤投与の際にはX線照射が伴う）。

【授乳婦】

診断上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。

【小児等】

小児等を対象とした臨床試験は実施していない。

【高齢者】

用量に留意すること（一般的に生理機能が低下している）。

【過量投与】

1. 症状：高濃度で、麻酔作用を示す。
2. 処置：過量投与時、清浄空気を吸入させるか、酸素吸入又は人工呼吸を行う等適切な処置を行うこと。

【適用上の注意】

1. 薬剤投与時の注意：
 - 1) 所定の吸入装置以外の装置では、使用しないこと。
 - 2) 本剤は吸入のみに使用すること。
 - 3) 容器は吸入装置に確実に挿入及び装着して使用すること。

【取扱い上の注意】

1. 容器は常に室温（40℃以下）に保ち、直射日光、裸火、暖房やボイラーなど高温にさらされるような熱源の近くを避けること。

2. 容器は、粗暴な取り扱いをせず、且つ衝撃、転落に注意すること。
3. 使用後の容器は、穴をあけて捨てること。
4. 容器は常に室温（40℃以下）に保ち、火気等の熱源から離れた所で貯蔵すること。
5. 容器からガス漏れのある場合、風通しの良い場所において、販売店に連絡すること。

【保管上の注意】

室温保存（40℃以下）。



Copyright© 2005-2025 e-pharma All rights reserved.